

行政経営推進事業について

1. はじめに

川西市では平成19年度より、市の行財政経営の仕組み（マネジメント）を根本的に見直し、行政経営と市民サービスの質の向上をめざすため、「行政経営推進事業」を全庁的に展開する。

2. 事業の必要性

本市では、これまでも総合計画・財政収支計画・行財政改革を三位一体とした行財政運営を行ってきた。しかしながら、財政状況は依然厳しく、新たな視点に立った抜本的な改革に向けた新しい基軸を打ち出すことが避けられない状況になっている。

このような中で、平成19年度施政方針において市長から4つの市役所改革が表明された。

【経営資源の改革】

- ①歳出構造の徹底した見直しなど、財政基盤の強化を図る。
- ②能力と意欲のある職員の力が遺憾なく発揮される仕組みを構築する。

【市民サービスの改革】

- ③市民サービス全般について、市民の目線から徹底して見直す。

【コミュニケーションの改革】

- ④積極的な情報提供や意見聴取など、様々な手法を活用して、市民とのコミュニケーション改革を進める。
- ⑤市役所内部においても、若手職員の声を反映するとともに、横断的な情報共有を図るなど、風通しの良い組織風土を醸成する。

【組織構造の改革】

- ⑥時代の要請や市民ニーズに的確に対応しうる組織体制の整備
- ⑦プラン・ドゥ・チェック・アクションという経営管理サイクルを組織運営の基本とする。

3. 事業の構成

上記の施政方針を基に、事業は以下の構成とする。

※各プロジェクトは相互の関連性を有する。

行政経営推進 マスタープラン	経営改革のマスタープランとして、経営改革の全体像と全体のシステム構成、サブシステムの構成・役割・相互関係を明らかにする。	
財政構造改革 プロジェクト	全ての事務事業の見直し 行政評価システム 自主財源の確保 人件費の見直し 民間委託化 業務・職場改善…など	① ③
組織・人材開発 プロジェクト	職員能力の開発 モラルの向上 目標・方針管理 意識改革運動 接遇の向上 やる気を引き出す人事評価制度 組織体制のあり方…など	② ⑤ ⑥ ⑦
協働参画 プロジェクト	協働の仕組みの構築 市民の意識・意見の把握と反映 広報・広聴 情報公開・提供…など	④

「行政経営推進事業マスタープラン」(行政経営改革にあたっての基本的考え方)の概要

1. 本マスタープランの位置づけ

- 平成19年度の「施政方針」において、「経営資源の改革」、「市民サービスの改革」、「コミュニケーションの改革」、「組織構造の改革」の4つからなる市役所改革への挑戦が表明されました。そして平成19年5月1日には、市長から「行政経営改革キックオフ宣言」が発せられました。
- マスタープランは、全職員が一丸となって行政経営改革に取り組むために、行政経営改革のねらい、方針等を明らかにし、職員の認識を共有することを目的に、作成しました。

2. 川西市における行政経営改革のねらい

- これまでは、川西市役所にも、縦割り行政・前例踏襲主義・横並び志向といった、行政にありがちな組織体質がありました。今回取り組む行政経営改革においては、こうした組織体質を打破します。そして、市役所の使命を踏まえ市民にとっての価値や説明責任を重視して、自ら能動的に自己革新できる組織、そして職員へと、一層の体質的・構造的変革を図ります。その上で、危機的な財政状況を乗り越えることをめざします。

3. 市役所の何を変えるのか

◆市役所経営の問題に取り組めます

- 職員の行動力を変えます
- 組織体質を変えます
- 財政体質を変えます
- 市民との関係を変えます

◆そして、こんな市役所にします

- 市民に喜ばれる市役所
 - ・より市民に信頼され、親しみやすい市役所にします
 - ・より市民にとって利用しやすい市役所にします
- めざす姿が明らかで、その実現に突き進む市役所
 - ・まちづくりや市役所の具体的な将来像をより明確にします
 - ・全職員がスピード感を持って、市民と協働で実現します
- 職員が活き活きと働く市役所
 - ・より職員が働きやすい市役所、働きがいのある市役所にします
 - ・より職員が活発かつ自発性に富み、互いに協力的な市役所にします

4. 経営改革を進めるに当たっての取組方針

◆行政経営改革を進めるための

3つアプローチ(取り組み方)

- ①現状と課題を共有するため、事実を確認するアプローチ
- ②市役所全体が成長し進化するアプローチ
- ③地域で公共を担うための「地域経営」のアプローチ

◆私たち、市役所職員の心構え

- 個性を大切にし、どんどん知恵やアイデアを出します。
- 対話と傾聴を重ねて、納得できるまで議論します。
- これを機会に、今まであいまいにしてきた懸案事項を、今一度見直します。
- やらされるのではなく、自らやるもの。当事者意識を発揮します。
- まず、やってみます。そして、実行しながら振り返り、変えるべきところは柔軟に変えていきます。
- 川西市職員としての使命感や倫理観を大切にします。また、貴重な資金や財産を有効に使います。
- 些細なことにとらわれるのではなく、本来の目的や成果に照らして判断します。
- 組織全体の目標を念頭に置きながら、仕事をします。目標の達成に向けて力を合わせます。
- 前例に付加価値を付けることを考えます。勇気をもって新しいことにチャレンジします。
- 最後まで粘り強く、諦めないで取り組みます。

5. プロジェクトの推進

マスタープランプロジェクト

全職員一丸となって行政経営改革に取り組むために、行政経営改革のねらい、方針等を明らかにし、職員の認識を共有します。

財政構造改革プロジェクト

市が持続的にサービスを提供できるように、安定した財政基盤を確立するとともに、全ての市の業務・サービスを再度、点検します。

組織・人材開発プロジェクト

社会環境変化と市民ニーズに迅速かつ機動的に対応できる能力と意欲をもつ職員と組織風土、組織体制を構築します。

協働参画プロジェクト

市政への理解と信頼を深めてもらうため、市政の現状を市民に透明にします。市民と行政とが共通の目的や問題意識を持って協働することにより、まちづくりを共に進めます

業務改善活動

即実行可能な取り組みについては、業務改善活動を即実施していきます。